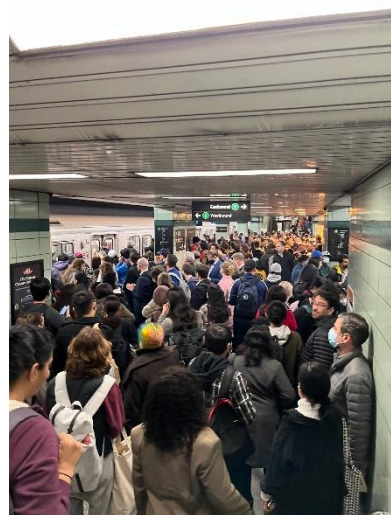


留学報告書 ～海外経験と学び～

ジョージ・ブラウン大学
外国語学部生（長期）

はじめに、私は公費交換留学生としてカナダオンタリオ州にあるトロントへ8月下旬から4月下旬までの長期留学をしました。留学前当初は漠然とした留学に行きたいという目標に向かって日々TOEFLの学習に励み、語学能力の向上を主に目的としていました。ACES(英語圏留学派遣前特別講座)により派遣前から実践的な日常会話や教授へのメールの方法、アカデミックな表現方法等を学ぶことができ学校の他にも家族と仲間のサポートと共に少しずつ留学の準備を進めて行きました。正直なところ留学直前まで派遣されることに対しての実感が湧くことが無く、現地に到着してからのホームシックと時差ボケで日本から離れて生活していかなければならないことを実感しました。憧れていた留学でしたが、初めの数か月は理想と現実のギャップで苦しむことが何日かありました。

トロントは多国籍文化で世界最大の多民族都市として有名であり、カナダの首都ではないものの大都会で毎日が新鮮で驚きの生活でした。トロントで出会った人はとても親切で人種分け隔てなく協力して生活しているという印象を受けました。頻りにインターナショナルなパレード、LGBT や平和に関するイベントが市内で行われており、異文化とマイノリティーもが尊重されている場面を多く目にしました。移動手段は主にTTC(Toronto Transit Commission)という公共交通機関を利用します。バス、電車内には多くの人種が集まりトロントらしい情景がある一方でコロナの影響によりTTC利用者の治安の悪化が頻りに指摘されていました。TTC内に関わらず犯罪や事件のニュースを留学期間中もよく耳にしました。実際に生徒が事件に巻き込まれ授業に来られないという事柄もあり日本との治安の差異と危機管理意識の不足に気が付きました。



授業はレベルごとに振り分けられたクラスを1セメスターごとに受け、十分な成績を得ることができた場合次のレベルに進むというシステムで私は計4レベルを受けました。授業内容はレベルによって異なり、基本的には新出の文法やイディオム、表現を活用したパラグラフを様々なお題に沿って書く(Writing)練習と正確にまとまった時間で自分の意見を伝えるためのグループディスカッション(speaking)練習を初めのクラスで重ねていくことで、少しずつ英語で授業を受けること、クラスメイトと交流することに慣れていきました。

レベルが上がるごとにももちろん内容もよりアカデミックになり、英語力だけでは授業、特



にディスカッションについていけない場面が増えました。多文化社会であるカナダにおける英語教育、食糧不足と食料安全保障について世界共通の問題、精神的な健康についてなど、英語力だけでなく世界情勢や知識量が求められる事が多くなりました。これらの事柄について過去に意見を持つことが滅多に無かったため自らの意見を持つことだけでも苦戦をしました。そのため、クラスメイトが積極的に発言している中で黙り込んでしまうことが無いよう事前にトピックについて調べるようにしました。例えば、食糧不足や食糧危機については日本で起きている関連した問題はないか、精神病についての資料に目を通して自身の既知の情報と比べてみてどんな違いがあるかなど事前にまとめておくことでディスカッション内でより多くの意見を持ち、発言することが出来ました。事前準備により情報だけでなくそれぞれのトピックに関連し

た語彙を集めることもできたためとても有効でした。

授業後はよく友人とカフェやショッピングモール、ランチへ行きました。マンスリーパスを買うことで地下鉄とバスでトロント市内ほぼ全ての行きたいところに行くことができる為放課後と週末はよく外出していました。課題やプレゼンテーションが重なった時には沢山の学生が集まるダウンタウンの図書館へ行き、友人と協力して乗り越えるようにしていました。

そして、トロントには多くの種類の国籍レストラン楽しむことができ、日本料理が恋しくなった時にはよく友人を連れてお寿司や焼き肉を食べていました。現地でも日本料理が人気で、お寿司レストランはトロント内にどこにでも見つけることができます。クラスメイトがランチやディナーによく招待してくれ、イラン、ラテン系、アジア料理等多くの料理を経験しました。

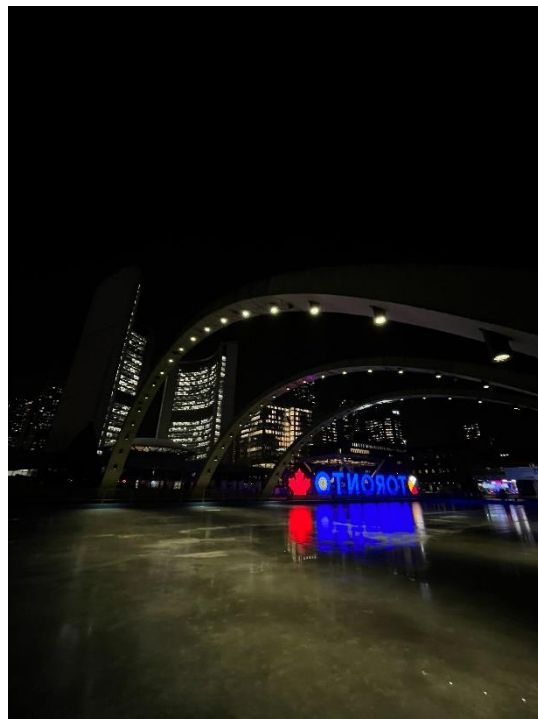
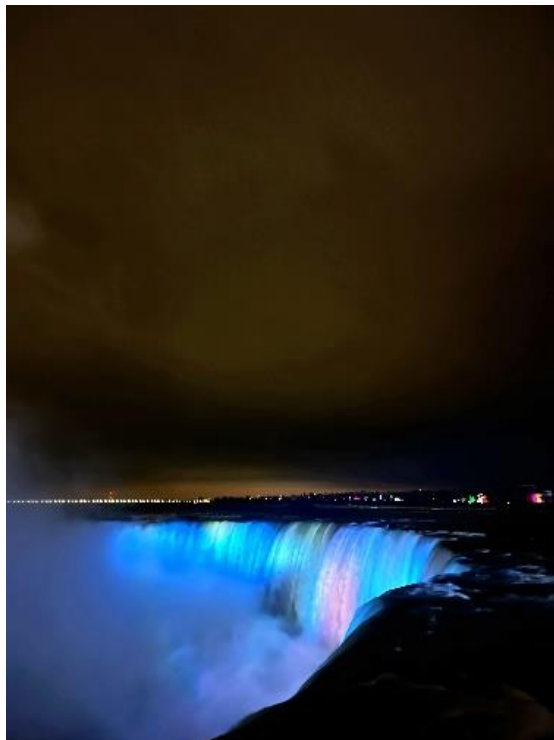
クラスメイトと外出する際それぞれの国で起きている自治問題や災害、人種問題について話す機会が多くあり授業後もとても充実した時間を過ごすことができました。日本にあまり馴染みのない宗教問題についてとても身近で問題視しているクラスメイトの話を聞くこともあり、ヒジャブやイスラム教について今まで知ることの無かったことをネイティブから聞くことができました。さらにトルコで起きた大地震についても災害大国として知られている日本から提供できる支援について話すことができました。

ホームステイ先はジャマイカ系ホストマザーと2人暮らしで開始当初にルールや門限を確認するようにしました。ホームシックと時差ボケで悩んでいるときにも親身になって話を聞いてくれ、学校であったこと、テストや課題についてディナーの時間によくコミュニケーションをとっていました。しかし滞在期間に開始当初に確認していた通信料について手違いがあったため金銭関係についても話し合いをする場面がありました。特に金銭面での話し合いはできれば避けたいような話題でしたが逃げることなく自分の意見とホストマザーの意見を伝えあいながら解決しました。

ホームステイは寮生活と違い、生活リズムが異なる人と過ごす必要があります。そのため門限やルールが寮生活より多く、想定外なことが起こりうるけれど、その分家族や友人以外の人と過ごすことにより得られた経験は貴重なものになりました。

留学開始当初は語学能力を伸ばすという目標だけを持っていましたが、それ以上に世界中の人の経験、文化、考え方の違いを学ぶ機会があり語学だけでなく多くの知識と経験を得ることができました。留学終了した今、多くの面で成長したと感じています。慣れない環境

でも自ら問題を解決するために他者とのコミュニケーションを疎かにせず、かつコミュニティを広げるため能動的にクラスメイトとの授業内外の交流を大切にしました。そして自分の短所と長所を再確認することができ、留学を経験したことにより成長とともにこれか



ら自分がより成長できる、すべき部分にも気付くことができました。この貴重な自らの気付きが無駄になってしまわないよう大学生活を後悔で占めることなく完遂させたいと考えました。そしてこれらの経験はこれからの選択に大きく影響していくと確信しています。